

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号： 19530141
 研究課題名（和文） EUをモデルとする地球公共政策とリスク・マネジメント
 研究課題名（英文） Global Public Policies and Risk Management in the EU

研究代表者

福田 耕治（FUKUDA, Koji）
 早稲田大学・政治経済学術院・教授
 研究者番号：20165286

研究成果の概要：EUの公共政策とリスク・マネジメントの事例として、気候変動など地球環境に関わるリスク、国境を越える感染症のリスク制御等については、2008年9月日本公益学会他で報告し、2009年4月に福田耕治編『EUとグローバル・ガバナンス』（早稲田大学出版部）を刊行した。またEU高齢社会のリスクおよびEUによる国際テロリズムへの法的規制、タバコ規制とリスク・マネジメントのあり方は、福田耕治編『EU・欧州統合研究』（成文堂）2009年7月刊行される予定である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学 3501

キーワード：地球公共政策、EU、リスク・マネジメント、持続可能性、環境、高齢社会

1. 研究開始当初の背景

リスクには、気候変動など環境に関わるリスク、世界金融危機など経済活動にかかわるリスク、安全保障・防衛にかかわるリスク、健康・医療にかかわるリスク、テロや犯罪にかかわるリスク、雇用にかかわるリスク、食の安全にかかわるリスク、など地球規模のリスクから個人のリスクまで、また現在のリスクから将来に及ぶ世代を超えるリスクまで多様である。

喫緊の地球規模課題が山積する現在、歴史的に先行するEUにおける地球公共政策につ

いて分析を行い、わが国のリスク・マネジメントの制度や公共政策への示唆を得え、政策提言することの意義はきわめて大きいと考えられる。

2. 研究の目的

リスク・マネジメントは、人間の活動の結果として生じる悪い事態を回避し、あるいは起きる確率をできるだけ低くし、不幸にして起こった場合にも社会的な影響、深刻度をできるだけ低くし、被害を最低限度に抑え込もうとする営みである。

本研究では、EUをモデルとして喫緊の課題となっている地球規模課題、すなわち相互に関係しているグローバル・ガバナンスに関わる地球公共政策とリスク・マネジメントについて焦点を当てる。

特に環境リスク、国際テロリズムに対するリスク、日本やEU諸国を中心に、世界経済・金融危機、OECD諸国における少子高齢社会化、国境を越える感染症制御などに伴うリスクなどが懸念される中で、EUの地球公共政策を事例とするリスク・マネジメント政策の具体例を取り上げ、その特徴と問題点を解明し、その対応策を検討し地球公共政策のいくつかを取り上げ、リスク・マネジメントのあり方を探り、わが国の政策への示唆を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

(1)EUとその加盟諸国におけるリスク・マネジメントの概念と方法、リスク管理を目的とするいくつかの公共政策の動向を探るため、研究分担者と協力して欧州での現地調査、ヒアリングによる各種のデータ収集、統計的資料の分析、文献学的検討等を駆使し、複合的・学際的・総合的な手法により、研究をつづけた。まず、入手可能な先行研究を調査し、事実関係を跡付け、EU・欧州諸国が直面する人口学的状況とグローバル化によって生じてきている多くのリスクとそれに対する政策課題について明らかにすることに焦点を当てた。

(2)この観点からEUの法制化の現状を捉えなおし、超国家的国際機構としてのEUが、地球環境規制、テロリズム規制、社会保障規制、健康保護規制などの法政策にいかなる形で関与し、これがEUにおけるデモクラシーの仕組みやガバナンスのあり方とどのように結びついているのか、欧州市民の安心・安全に貢献しているのか、明確化することを試みた。

(3)これらの検討を踏まえ、EUをモデルとする地球公共政策の現状とその可能性について多角的に考察し、たとえば民間企業のCSR活動とリスク管理の関連性など、リスク・マネジメントを取り巻くステークホルダー(利害関係者・機関・団体等)との関係をも考察の対象とした。また、EUによる国際リスクへの法的規制とリスク・マネジメントのあり方をとりあげ、個々の政策事例を通じて明らかにし、リスク・マネジメントの実態を検証した。

4. 研究成果

(1)2008年7月7日(日)、研究代表者・福田耕治は、日本国際文化学会(於:文教大学)で「EUから見た東アジア共同体構想」と題するテーマで学会報告を行い、EUのリスク・マネジメントのあり方をモデルとして、現在構想されている「東アジア地域における共同体」の大きな役割、任務として、環境、食の安全、防災、感染症対策、社会保障など、多様なリスク・マネジメントが係わっていることを明らかにした。

(2)2008年9月7日(日)、研究代表者・福田耕治は、気候変動など環境に関わるリスクについては、本公益学会で報告し、2009年4月に「グローバル・ガバナンスとEUの持続可能な発展戦略 - 気候変動抑制と再生可能エネルギー政策を事例として」論点を分析し、研究成果の一部を公表した。

(3)2008年10月12日(日)、研究代表者・福田耕治は、日本政治学会(於:関西学院大学)で「EUにおける法制化とデモクラシー」という学会報告を行い、リスク管理の基礎となるEUの法制化の特質についてデモクラシーとの関連で明らかにした。

(4)2009年1月、上記の日本政治学会での報告を基礎とする研究論文は、「EUにおける法制化とデモクラシー」『同志社大学・ワールドワイドビジネスレビュー』第10巻 第2号に論文を刊行された。

(5)研究代表者および研究分担者が中心となる早稲田大学EU研究所から、EU・欧州委員会の助成によるEUインスティテュートの公募に応募し、幸いにして採択され、国際機関からの早稲田大学の外部資金獲得にもつ

なだった。日本における EU 研究・教育・啓蒙拠点の一つとして「EUIJ 早稲田 (European Union Institute in Japan at Waseda University)」が選定され、2009 年 4 月から「EUIJ 早稲田」が開設された。これにより、研究代表者および研究分担者の本研究課題の成果を社会へ還元するだけでなく、本学における今後の EU 教育・研究がさらに活性化され、発展することが期待される。

(5) 11 月 22 日 (土) 研究分担者の堀口健治は、早稲田大学で「サイエンスカフェ in 早稲田大学」において、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの協力を得て、早稲田大学の農山村体験実習講座の拡大授業として開催し、食の安全についての研究成果の一部を公開した。またテレビ東京の 2008 年 10 月テレビ東京の TV 番組に出演し、「食の安全」リスク・マネジメントについて研究成果の一部を一般社会にも公開した。

(6) 11 月 28 日 (金) 研究代表者・福田耕治および研究分担者・須網隆夫が中心となり、ライター・スイス大使 (元駐日欧州委員会公使) を招聘し、EU 講演会開催し、「EU におけるデモクラシー」(於：早稲田大学現代政治経済研究所会議室) について、学生・教職員にも開放し、研究課題に関連した EU に関する最新の情報や知見を得ることができた。

(7) 3 月 31 日、研究代表者・福田耕治編著『EU とグローバル・ガバナンス』(早稲田大学出版部) を刊行した。同書には、地球環境リスクをめぐる問題のほか、国際感染症リスク制御に関する「EU における感染症予防政策のガバナンス」という論稿も所収している。

(8) 研究代表者・福田耕治は、EU における高齢社会のリスク・マネジメントについては、2009 年 7 月、福田耕治編『EU・欧州統合研究』(成文堂) の刊行を予定している。本研究報告書の提出時点では、初校ゲラが出た段階にある。同書の第 3 編で、特に「EU の持続可能なガバナンスとリスク管理」を取

り扱っている。

EU・欧州諸国が当面する人口学的状況と課題を明らかにし、この課題に対応するための高齢者雇用の現状と雇用可能性を検討し、CSR 活動とリスク管理の関連性を考察した。

研究分担者の須網隆夫は、EU による国際テロリズムへの法的規制とリスク・マネジメントのあり方を「EU 対テロ規制と法政策」(須網隆夫) をとりあげ、考察した。

その他に同書、福田耕治編『EU・欧州統合研究』(成文堂) では、EU 研究所のメンバーとともに、EU の地球公共政策とリスク・マネジメントに関わるものとして、以下の論稿が所収されている。

「EU・欧州統合過程と欧州統合理論」
(第 2 章、24 - 46 頁)

「EU 経済通貨統合と世界金融・経済危機」(第 3 章、47 - 74 頁)

「EU/欧州ガバナンスと政策過程の民主化」(第 5 章、99 - 124 頁)

「EU の高齢政策とリスク管理」(第 5 章、99 - 124 頁)

「EU 対テロ規制と法政策」(第 8 章、159-178 頁)

「EU のタバコ規制政策と健康リスク管理」(第 9 章、192 - 158 頁)

「EU 不正防止局と不正防止政策」(第 10 章、179 - 191 頁)

「EU 社会政策の多次元展開と均等法政策」(第 12 章、223 - 244 頁)

これらの論稿を通じて、EU と世界金融・経済危機のリスクに関わる問題、企業活動と個人の消費行動との関係、健康リスクや医療との関係、障害者を取り巻くリスクとの社会保障の関係、年金等や行政の不法行為・不正行為に伴う経済リスクの管理など、さまざまなステークホルダーの視点から EU をモデルとする地球公共政策とリスク・マネジメントについて考察を行い、わが国の公共政策への示唆や政策提言を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

福田耕治「EUにおける法制化と民主化」『同志社大学ワールドワイドビジネスレビュー』第10巻 第2号、2009年、1 - 14頁。査読付。

須網隆夫「地域的国際機構と国際テロリズム規制—EUによる国際テロへの法的対応と課題」、『国際法外交雑誌』第106巻第1号、2008年、1 - 22頁。査読付。

〔学会発表〕(計 3 件)

2008年10月12日・日本政治学会(於:関西学院大学)
福田耕治「EUにおける法制化と民主化」

2008年9月6日・日本公益学会(於:早稲田大学)
福田耕治「EUの気候変動抑制と再生可能エネルギー政策を事例として」

2008年7月10日日本国際文化学会(於:文教大学)
福田耕治「EUをモデルとする東アジア共同体構想」

〔図書〕(計 2 件)

福田耕治編『EUとグローバル・ガバナンス』(早稲田大学出版部)
2009年4月刊行、191頁。

福田耕治編『EU・欧州統合研究』(成文堂)
2009年7月刊行予定、320頁(5月初校)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 耕治 (FUKUDA KOJI)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号: 20165286

(2) 研究分担者

堀口 健治 (HORIGUCHI KENJI)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号: 80041705

須網 隆夫 (SUAMI TAKAO)
早稲田大学・法学学術院・教授
研究者番号: 80262418